

高浜町 町長・野瀬 豊 様

申し入れ書

野瀬町長には、町の発展に向けてご奮闘のこと、ご苦労様です。

さて、原発を動かせば、使用済み核燃料が発生しますが、発生直後の使用済み核燃料は、膨大な放射線と熱を発生しますから、燃料プールで水冷保管しなければなりません。そのプールが、今、満杯になろうとしています。満杯になれば原発を運転できなくなるため、関西電力（関電）は、放射線量と発熱量が減少した使用済み核燃料を「乾式貯蔵」に移して、新しい使用済み核燃料を保管する空きを作ることに躍起です。その一環として、関電は2月8日、「乾式貯蔵施設」を原発敷地内に設置するための事前了解願を高浜町、おおい町、美浜町、福井県に提出しました。3月15日、3町長は申請了承の意向を福井県に伝えています。

この申請了承に際して、野瀬町長は、『「乾式貯蔵」は町民のリスク軽減になると言える』とし、『昨年（10月10日）示された関電の「使用済み核燃料対策のロードマップ」の着実な推進と立地自治体の地域振興が重要』と念を押しています。

確かに、放射線量と発熱量が減少した使用済み核燃料を「乾式貯蔵」に移せば、プール内で貯蔵するよりは安全になります。しかし、それは、使用済み核燃料の発生源・原発が停止され、新しい使用済み核燃料が発生しない場合です。ところが、関電は上述のように、「乾式貯蔵」によって出来た燃料プールの空きに、新しい使用済み燃料を貯蔵することによって、原発の運転継続を画策しているのです。放射線量と発熱量の膨大な新しい使用済み核燃料を保管する燃料プールは超危険で、倒壊すれば、大惨事に至ります。このことは、福島原発事故時に、4号機の燃料プールが倒壊の危機に至り、政府が「170 km 圏内の住民の強制避難、250 km 圏内の住民の自主避難」を検討した事実からも明らかです【この危機は、偶然の幸運の重なりによって回避できました（詳細略）】。

一方、関電が、昨年提示した「ロードマップ」で、使用済み核燃料の搬出先として稼働を願望していた青森県の核燃料再処理工場について、日本原燃は8月23日、27回目の完成延期を発表しました。これで、「ロードマップ」は破綻したと言えます。

それでも、関電の森望社長は、9月5日、杉本達治福井県知事と面談し、関電の原発で溜り続ける使用済み核燃料の県外搬出に向けて昨年10月10日に発表した「ロードマップ」を、「本年度末までに見直す。実効性のある見直しができない場合、老朽原発・高浜1、2号機、美浜3号機を運転しない」と述べています。面談は、高浜町、おおい町、美浜町でも行っています。しかし、現在までに、「使用済み核燃料の行き場」に関して、その場しのぎの空約束と約束反古を繰り返してきた関電の言動は、信用できるものではありません。

関電は、2021年にも、福井県知事に「使用済み核燃料の中間貯蔵地を2023年末までに福井県外に探す。探せなければ老朽原発を停止する」と約束しましたが、未だに候補地を見出すことはできていません。老朽原発・美浜3号機、高浜1、2号機の再稼働への福井県知事の承認を得るための空約束でした。

昨年10月10日に関電が「ロードマップ」を発表したのは、2021年の約束を履行できないことが明らかになったため、それを取り繕い、老朽原発の運転を継続するためです。この「ロードマップ」で、関電は、再処理工場の活用、

中間貯蔵施設の確保を盛り込み、いかにも近々使用済み核燃料の福井県外搬出が可能であるかのように見せかけていますが、いずれも実現の可能性はない「絵に描いた餅」でした。昨年10月時点で、「近々の再処理工場稼働は不可能」は大方が予測するところでしたが、関電は、自社にとって不都合なこの予測を無視したのです。原発立地3町の町長や福井県知事も、再処理工場の完成や中間貯蔵地確保の見通しなどを斟酌することもなく、関電の示した「ロードマップ」を早々に容認しています。「原発の運転継続ありき」の出来レースといわれる所以です。

それでも、関電は「使用済み核燃料搬出の円滑化のために原発構内に乾式貯蔵施設の設置を検討する」とし、福井県内での「乾式貯蔵」への布石を打ちました。関電の燃料プールは3~6年後に満杯になって、原発を停止せざるを得なくなるため、プールに空きを作ろうとする策略と史料されます。行き場を見出せない使用済み核燃料の「乾式貯蔵」を認めれば、「永久貯蔵」になりかねません。

使用済み核燃料の行き場を見出せない関電は、2021年の福井県知事との約束を完全に履行し、老朽原発の即時停止を実行するのが当然で、責務です。

なお、老朽原発依存経営を進める関電は、本年5月、原子力規制委員会から高浜3、4号機の40年超え運転の認可を得ています。MOX燃料を使用する原発の40年超え運転は初めてです。これで、来年には、関電の稼働可能な原発7基の内の5基が40年超え運転となります。高浜1、2号機、美浜3号機は、もうすぐ50年超えの超老朽原発です。老朽原発では、交換不可能な圧力容器の脆化が進み、点検や交換が難しい配管、送電ケーブルの損傷も進んでいます。原発が老朽化すれば、耐震性がさらに低下します。危険な老朽原発運転には、高浜町住民の多くも反対しています。

福島原発事故が教えるように、原発過酷事故の被害は、立地自治体のみならず、極めて広域におよびます。したがって、高浜町長や町議会の原発に関する判断は、若狭湾岸住民はもとより、広く関西、中部など、広域の住民の生命と尊厳にかかわります。

本日(9月23日)高浜町文化会館に全国から結集した私たちは、上記の視点に立ち、高浜町長に以下を申し入れます。

【1】高浜町は、福島原発事故、能登半島地震を目の当たりにした今、「万が一にも過酷事故を起こしてはならない原発の運転が無謀、理不尽であること」を再認識して下さい。

【2】高浜町は、危険極まりなく、行き場もない使用済み核燃料の発生源・原発に依存する町政を改める決断をして下さい。とりわけ、再処理工場の完成が2年半も延期され、完成の目途も立たず、昨年提出の「ロードマップ」が破綻した今、2021年の約束「老朽原発・高浜1、2号機、美浜3号機の停止」の即時履行を求めて下さい。また、近々運転開始後40年の老朽原発となり、トラブル続発の高浜3、4号機の即時廃炉を求めて下さい。

【3】高浜町は、全ての原発を停止させ、その後、今まで蓄積した使用済み核燃料の処理、処分、保管に関して真剣かつ広範な議論を開始して下さい。

【4】高浜町は、一刻も早く原発と決別し、核燃料、化石燃料を使わない「人の命と尊厳を大切にす未来」を見据えたまちづくりを進めて下さい。

2024年9月23日

「老朽原発うごかすな！高浜全国集会 -地震も事故もまったなし-」参加者
(連絡先；「老朽原発うごかすな！実行委員会」090-1965-7102)